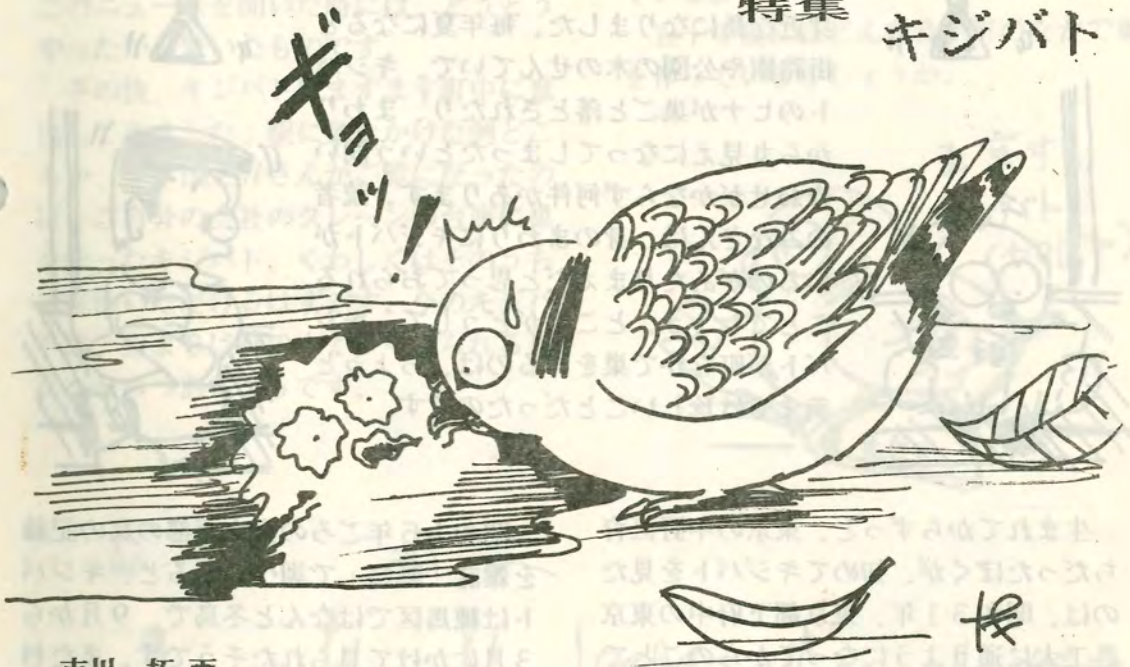


# オナガも通信57

行徳野鳥観察舎友の会会報 1989年8月1日発行

特集 キジバト



市川 拓西

# キジバト

## キジバトは

### 山ぼとだった

運尾 嘉彪



このごろ、キジバトは本当にどこでも身近な鳥になりました。毎年夏になると街路樹や公園の木の下で、キジバトのヒナが巣ごと落とされたり、まわりから丸見えになってしまったという問い合わせがかならず何件かあります。読者のみなさんは、身のまわりにキジバトがいるのがあたりまえだと思っておられることでしょう。ところがどうして、キジバトが町なかで巣を作るのは、ちょっと前までは珍しいことだったのです。



生まれてからずっと、東京の中野区育ちだったぼくが、初めてキジバトを見たのは、昭和31年、東京都下府中の東京農工大に通うようになってからのことでした。鳥の知識があまりなかったせいもあるかも知れませんが、自宅の近くでモズ、ホオジロ、オナガ、カワラヒワ、コジュケイなどはよく見知っていましたから、もしキジバトが今のようにならば、気がついていたら、気がついていたら、と思います。

大学構内の木に作られたキジバトの巣を見つけました。細い枝を雑にならべた巣はすげすげで、下から見上げると卵が2つ見えるので、びっくりしてしまいました。ところが卵を抱いていた親鳥は、とても神経質で、巣の真下をぼくが通りすぎただけで驚いて飛び立ち、それっきり、巣と卵を見捨ててしまいました。それからは、キジバトの巣にはぜったい近づかないように気をつけていました。

昭和15年ごろの東京西部の鳥の記録を雑誌「野鳥」で調べてみると、キジバトは練馬区ではなんと冬鳥で、9月から3月にかけて見られたそうです。また杉並区の善福寺や都下の武蔵野、三鷹の間にある井之頭公園では、周年見られるが巣を見たことがないと書かれていて、文章からすると、どの地域でもあまり多くはなかったようです。

日本野鳥の会東京支部では、昭和29年から毎月第3日曜に明治神宮で探鳥会を続けていますが、ここでもキジバトは昭和37年ころまでは、6月～9月にかけてはめったに記録されず、どちらかと言えば冬鳥タイプに近かったように思われます。

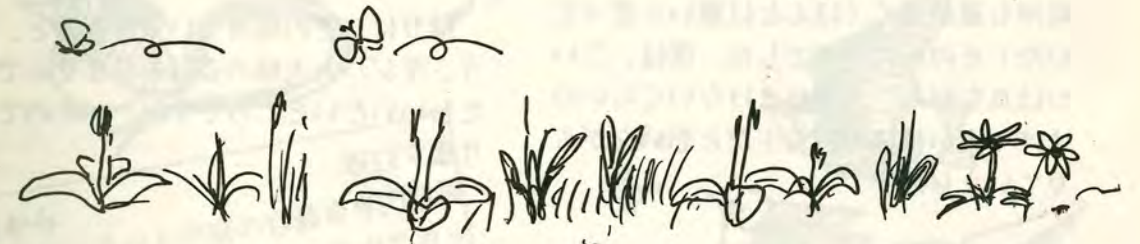
ところが、昭和45年におこなわれた繁殖調査では、キジバトの繁殖は東京の平地のほぼ全域（隅田川以西では普通）で報告されています。もっと驚いたことには、樹上でしか巣を作らなかったキジバトが、ベランダの下に巣をかけたという例がありました。

今では人工の構造物を利用したキジバトの営巣はそう珍しくはありませんが、このニュースを聞いた時には、とうとうやったかと驚いたものです。

その後、キジバトはますます町中に進出してきました。駅に巣をかけた例どころか、今年田上昇さんがご覧になったのは、ご自分の会社のクレーンの台座に巣を作ったキジバト。くわしくはそのうちご寄稿いただけるはずですが、今のキジバトは、山よりは町の中で多く見られる鳥になりつつあるようです。

多くの鳥が開発の影響を受けて次第に姿を消している中、人間を利用して逆に町のなかに侵入をしはじめている鳥もいます。有史以前(?)にはツバメ、スズメ、カラスなど。戦後にはキジバト、ヒヨドリ、ハクセキレイ。そして最近になってコゲラ、チョウゲンボウ、ツミなどがいくらか(まだ定着するかどうかというところ)。案外すみやかな適応を見せているようです。

五十年後にはどんな鳥が町のなかで巣を作っているのでしょうか。



## 運の悪くなったあの日

阪本 卓也

今から思えば、あの日一日僕はすごく運が悪かったような気がする。忘れもしない1989年……あれ!? 忘れてしまった!! (すみません) えーと、あの朝は、午前5時に起きて、いつものようにお茶を飲もうとして、コップに入れた時、茶柱が立っていた。僕は、それだけ

でルンルン気分になってしまった(結構迷信深いのである)。まあ、そんなわけでありやして、いい気分が津田沼駅に降りたのでありやす。(ここからが悲劇の始まりなのだ)

そして、いつもの通りに、半分ねぼけながら階段を降りたその直後、何か後ろのほうにいる!!と思い、後ろを見た瞬間僕に向かって一つの物体が飛んできたのです。てっきり友人がおそいかかってきたのかと思い、その物体をけろうと思った瞬間、その物体は、ふわっと浮き上がって、僕の目の前を通っていきました。あれ?と思って振り返ってみると、なんと!!“キジバト君”だったのです。

そのキジバト君のおかげで目がさめた僕は、もう一度、そのキジバト君を見ました。すると、なんと!! 巣をつくっていたのです。それだけならまだいいのですが、その巣をつくっている場所がスクールバスの発着所の木の一つで、しかも道路側からは見えませんが、歩道側からは、しっかりと見えてしまっているのです。おいやまあとと思いつつ、スクールバスを待つ列にならびました。まあ、その場所も運が良く(ほんとは悪いと思っていた)その木の真下でした。僕は、こいつは鳥ながら、人間にまけないぐらいのすげー太い神経の持ち主だと思いながら見ていました。



しばらくたち、人が集まって来て、女どもがさわがしくなってきました。僕はてっきりもうやめるだろうと思っていたので、軽い気持で、キジバト夫婦が巣をつくっていた場所を見ました。ところがまだ、ひっこく巣をつくり続けていました。突然隣りにいた友人が、「おまえ野鳥の会に入っているんだろ?」と聞いてきたので、僕が「まあ、一応ね。」と答えたら、また友人が「一つ聞くけどよ、野鳥だろ、あれ? あんなのでいいの?」と言うので、「いいんじゃないの?」と答えたら、「あんがいいかげんだなおまえ。」といわれ、その後、何も言い返せないままつまこまれていました。

帰りに、その場所へいってみると、もう、キジバト夫婦の姿はありませんでしたといたいところですが、いたのであります。

ポッポ



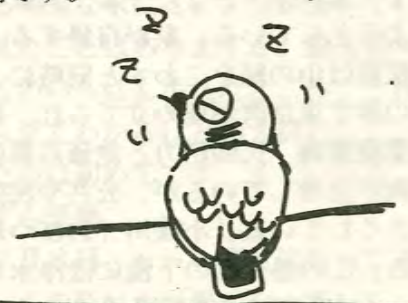
まじめに  
かれよ、

市川 拓画

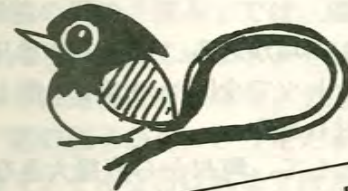
てっきり僕はどっか遠くに移動したんだろうと思っていたら、今度は、ダイエーの目の前の木につくっていて、それをながめていたら、ポリスマンがやってきて、「何をしているんだ!!」と僕に聞いてきました。僕は正直に、「キジバトが巣をあそこで作っているの、それを観察しているんですけど。」と答えました。「本当か?」と聞いてその警官は、僕の指さす方向を見ました。すると意外に(ほんとに意外だった)「あら、本当だ!!」とその警官は、上機嫌になり、むこうにいてしまいました。(なんかごまかされたような気がした)

ついてねえなあーと思いながら、ホームへと階段を降りていた時、つるつとすべっていちばん下までころげ落ちてしまいました。同時に、制服のボタンがとれて、自分の運の悪さに腹が立ち、朝飲んだお茶がしぶかったのを思い出して、もう迷信は絶対信用しない、とそのときめました。

みなさんも、迷信をあまり信用しない方がよいかと思いますよ。あの日の僕がいい例です。



さ、え、か、ず、ら、ん



坂口 敦  
甲府から  
ぼくは4月から甲府の自動車専門学校に通っています。甲府では、市内でカウコウ、ホトトギス、イワツバメなどが見られます。特にイワツバメはどこに行っても見られます。歩道橋などで営巣し、郊外でえさをとっています。  
この間、四尾蓮(しびれ)湖に行きました。マムシ、ヤマカガシがたくさんいて、なんとオタマジャクシを食べていました。コルリ、サンコウチョウ、コノハズクなどがいましたが、へびを見るにはおもしろいところです。



田久保 晴孝

私は7月1・2日に千葉市で行なわれた「開発と保全を考える千葉フォーラム」に参加して、改めて大資本による千葉県の開発の圧力に驚き、何とかしなければという思いを強くしました。今、千葉県の内陸部で進められている開発の中で、特に○山砂採取、○産業廃棄物、○ゴルフ場についてとりあげてみたいと思います。

1; 山砂採取 君津から富津にかけて、海岸から一步内陸に入った地域では、山々が削りとられ、まるでランド・キャニオンを思わせるような100m余の絶壁になっている。特に浅間山(海拔204m)はそっくり削り取られて平地になった。開発のための山砂採取は更に勢いを増していると言われ、東京湾横断道路の人工島や市川二期埋立をにらんで、鬼瀨山(きなだやま; 海拔204m)の保安林が解除され、また一つの山が削られようとしている。県が自慢する「緑豊かな千葉県」の自然が泣くのではないか。

山砂採取は山の緑をこわすと同時に、周辺住民やダンプ運転者の健康被害をももたらす。この砂で東京湾が埋め立てられ、採取時の赤水が東京湾へ!!

2; 産業廃棄物 民間活力と地価高騰による建設ブームと使いすて文化などにより、産業廃棄物が急増しているが、公共や民間の処分場を利用せず不法に投棄されるゴミが問題を大きくしている。小櫃川(おびつがわ)の上流にも大規模な処分場の建設が強行されている。この処分場の下流には浄水場があり、その水を飲む人はどうなるのかということで、「小櫃川の水を守る会」の人々は、「公害紛争審査会」に申し立てている。

地下水汚染、赤水、土砂くずれ、ダンプ公害…いろいろな問題がある。汚れた水は海へ流せ、ゴミ処理に陸がダメなら海を埋め立てればよい、という声はあまりにも安易ではないか。公共等の処分場は今はまだ満杯ではないのに。

3; ゴルフ場 千葉県には今年の5月現在96か所のゴルフ場がある。全国で3番目に多いが、建設中16、そして計画中78を合わせるとダントツで全国一のゴルフ県となる。全面積の15~20%がゴルフ場になってしまう町村もある。

リゾート法や地域振興、過疎対策の手っとり早い方策として、町村から直接大きな出費をしなくてもよいゴルフ場づくりが全国的なブームになっている。しかし、村や町の共有林を利潤追求を目的とする企業に売り渡してしまうことが、これまで森林を守り育ててきた人々や、百年後の子孫のためになると考えた上でのブームなのだろうか。

ゴルフ場の巨額の会員権は利権の一つになる。大企業や投資家の社交場という性格、多々あるゴルフ場がらみの汚職などを考えると、祖先からの森林を壊して、農薬、除草剤、保水力、緑の質等の問題をかかえたゴルフ場を誘致することは、決して地域振興にならないのではないか。住処を追われた動物はどこへ行けばよいのだろう。

保水力が4分の1しかないゴルフ場が保安林の一種とみなされる森林法の改悪が進められている。農薬、除草剤、赤水が海へ!!

日本の自然は、イギリスやフランスに比べ、けたちがいに雨が多く夏は暑いモンスーン気候です。そのため植物の成長がはやく、うまく自然回復の手助けをしてやれば、よい環境を導くこともできます。芝生だけが緑ではありません。

森に生きてきた動物たちの目で、日本の森や林を見つめ直してください。自然をよく見つめると同時に生活の質を考え、環境をいためるものに対して、一声をかけ、一つ行動にうつして行きましょう。

## 水車ニュース

よく降りますね。今年ほど梅雨らしい梅雨をたんのうできるのは、ひさしぶりではないでしょうか。じとじと、むわーというむしあつさは毎年のことですが、ちゃんと毎日1ミリ以上の雨が降るのですから、りっぱです。

おかげで、丸浜川はたいへんきれい。これまで、雨がふった後は泥底が完全に露出するまで徹底したポンプ排水が行なわれていましたが、今年は少々の雨ならあわてないというような感じで、雨がふり出してもすぐにはポンプ排水をせず、やんだ後、満々と水をたたえていることも珍しくありません。100%家庭排水だったところに何割か雨水がまじることになり、汚れが薄められて水がきれいになりやすいのかも知れません。

水位はけっこう高いので、観察舎正面玄関脇の例の「深み」では、硫化水素がじゃんじゃん出ています。それでも日によっては透視度が60センチ以上もあって、底の様子がくっきり見えることもあります。そんな日は底まで日光や酸素が届くらしく、硫化水素の濃度が急に下がることもあるようです。何しろ、せせらぎ1号と2・3号の3台の水車の間、約400mの区間では、今年に入ってから1回も「黒い水(何日か無酸素状態が続いたことを示す硫化物による色)」を見ていないのですから。

7月1日、70~80センチの深さまでくっきり見通せる水にびっくりして、猫実排水機場まで様子を見に行ってみました。塩浜橋の下、深さが2~3メートルもある遊水池の部分は、水はたいいてい真っ黒で、きつい臭気が漂っています。

この日も水面におつぷつガスの泡が立っていましたが、水はなまり色というかわゆるどぶ川色。においもほとんどなく、ふだんのまっ黒な水にくらべてずいぶんましな状態に見えました。

排水機場の水門のすぐそばで、鉛色の水面に、まっ赤なすじが何本も見えました。血を流したみたい、とぎょっとしたのもつかの間。ミジンコだ! もっとぎょっとしました。赤いミジンコの大群が水面近くに群れていたのです。

まっ黒な水にミジンコが泳いでいるのを見たことはありますが、猫実排水機場近くのいちばん汚れたところ、それも道から見てわかるほどの大群のミジンコを見たのは初めてです。すごいなあ、とひたすら感動。

7月8日、もう一度見に行ってみました。この時は水が黒くなっていて、ミジンコも見えませんでした。でも、わざわざ水面近くにおいてミジンコとりをしている男の人がいたので、きっとどっさりいたのではないかと思います。

おかげで、定例の底生動物調査は四苦八苦。6月25日、塩浜橋近くの測点2で生きたムラサキガイ(たぶん保護区の高校水門の開閉の時に流れ出たもの)が2匹も取れたほか、せせらぎ1号そばの測点3ではイトミミズのおだんごがいくつも取れてしまい、とうとう概算で三千くらいということになりました。それもそのはず、灯油ポンプで泥水を採取する「底泥水質調査」の表層の泥では、わずか30ccくらいの泥中にユスリカ17尾。イトミミズは小さくて裏ごし器の網目からぬけてしまい、はっきりしませんが、少なくとも40尾はいました。

この調子だと、そのうちユスリカの大群が問題になるかも知れない、などと、とりこし苦勞をしているところです。



やっと私の番がきて、(私はきつと泣きそうな、必死な顔をしてたんだろう) 窓口のきりっとしたサリーのお姉さんは私の顔をちらっとみて、口もとに笑みをうかべて、コンピューターをばちばちはじきだし、ゆっくりと大きな声で“180ルピー”と1言。200ルピー出すと、切符と20ルピーをわたしてくれた。おつりをたしかめ、お姉さんの顔をもう1度みると、お姉さんは“OK?”と喋ってまた口もとに笑み。

やった!切符買えた!なんともいえないいい気分! 普段、お金を入れて、べしっとボタンをおすと、ポロッとでてくる切符しかなじみがないもんだから、切符1枚買えたのが、こんなにうれしいとは、ね。

ジャイプール行の夜行、23:45 オールドデリー駅発。さて、今度はデリー駅まで行かなくてはいけないわけで、さすがに歩くにはちょっと遠い……そこで、これまた必死の思いでオートリクシャーに初挑戦。リクシャーというのは手強くて、うまくやらないと、だまされたり、

高い料金をとられたりすると、色々な話を耳にしていたので、これまでコワくてずっと避けてたのです。

とまってるオートリクシャーに近づいて「デリー駅までいくら?」とこわごわきくと、「20ルピー」えーっ、高いよ。ふつう10ルピーぐらいってきいてたのに。私が「10ルピー」というと、リクシャーのおじさんは「それは無理だよ」「じゃ、15ルピー」「20ルピー」「15ルピー!」「20ルピーだって」「じゃ18ルピー」「As you like」(この As you like ; お好きなように、というのがくせもの、というのはあとでわかったんだけど)。

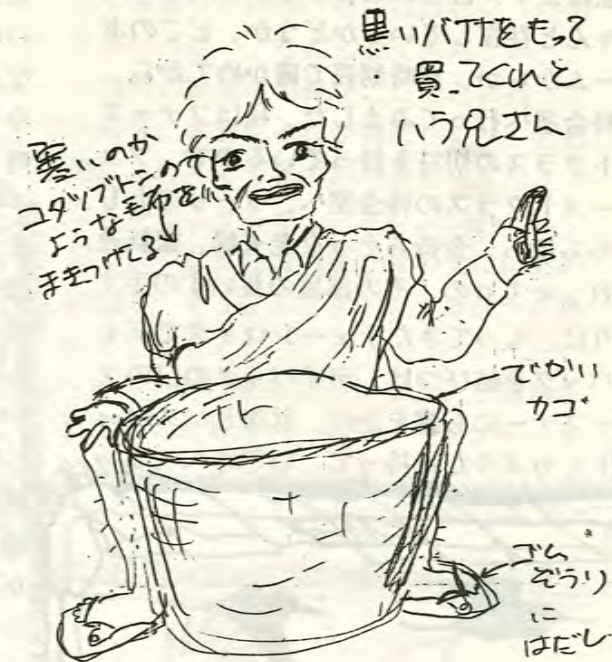
乗れ、という動作をするから、えいっとならばかりに乗っちゃった。オートリクシャーというのは、屋根つきの自動3輪車でうしろのシートに3人ばかり座れるようになっているもの。ブンブーン!とすごい音、今にもこわれそうなボロい車体、ギシギシいわせながらすっとなでいき、車のあいだをすり抜け、すり抜け……もう必死で、“怖い”なんて言葉すら、うかんでできませんでした。

そのうち道幅がせまくなってきて、オートリクシャーよりサイクルリクシャーやターン(合い乗り馬車)が目立ちはじめ、建物が赤っぽくなり、空気に甘い果物と動物(きっと馬からくだかぞうかうし)人間の混じった香りが出てきて、物売りの声、その他の人々の声が大きくなってきて……と思ったら、オールド・デリーに入っていました。デリー駅の前(ちなみに駅もデリー駅とニューデリー駅があるのです)にオートリクシャーはとまり「20ルピー」「えー?高いって言ったじゃないのよ」「ここは駅のまん前で、他のリクシャーはなかなか入ってこれないようないい場所だから、20ルピーは正当な値段だ。」とおっちゃんももっともらしい理由をつけてきたので、ははあ、そういう商売の仕方もあるな、と感心したついでに、めんどくさいのも手伝って、20ルピー払ってしまっ……おっちゃんは上機嫌で、ブンブブーン!と走り去って行き、私の目の前には、ででーんとでっかいデリー駅。

大きい。いかにも駅。

ご存じのようにかつてインドは英国の植民地だったわけで、インドの発達した鉄道網は、この植民地時代につくられたもの。鉄道の元祖ともいえる英国式の鉄道、したがって、その設備はたいそう立派なもの。広いインド大陸には、時代と共に、狭い国土には不向きと淘汰されていったかつての鉄道が、そのまま生きているのです。高い屋根の大きな駅舎、広いホーム、SL、……初めて訪れる異国の地なのに、なぜかちょっぴりなつかしい気分。

“インドの駅には何でも揃っている”というのは本当で、切符売り場、トイレ水のみ場、軽食スタンド、ぐらいは、まあ日本のどこの駅にも(?)あるもので

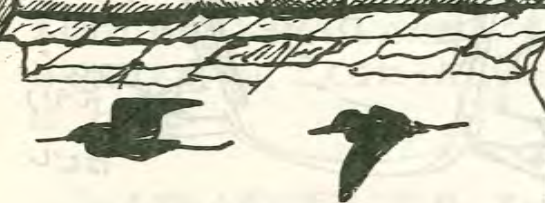


すが、ベジタリアン(肉食主義者)とノン・ベジタリアンに分かれた食堂、荷物預け室、ツーリスト・インフォメーション(旅行案内所)、銀行、電話局、郵便局、となんでもござれ。また待合室は女性用、男性用の他、ファーストクラス、セカンドクラス、A/C(エアコン)クラスの3つに別れています。(あ、ちなみに、客車もその3クラスに別れています。それぞれの様子については後ほど)待合室にはトイレとシャワー・ルームがついていまして、仮眠もできるようになっています。仮眠じゃなくてちゃんと寝たい、という人には、リタイアリング・ルームという宿泊施設もあります。私は結局一度も利用しなかったのですが、よくわかりませんが、のぞいたところでは、個人用のロッカー付きのドミトリー・ルーム(ベッドだけが並んでいる)のようでした。

これが昔のジャイプール行のきっぷ

PNR No.	518015	TICKET No.	15224331
CLASS	1	RESV	CONFIRM
TRN LEAVING DE	22-12-88	VIA RE	LHU-SIKR-RGS
K.M.	ADULT CHILD CASH Rs. VOUCH Rs.	SEX	AGE SEAT BERTH No.
404	1 180	F	21

駅の話はこれ位にしまして……さて、私はまず、自分の乗ろうとする列車がちゃんと存在しているかどうか、どこのホームからか、を時刻表で確かめてから、待合室へ行ってみました。私はファーストクラスの切符を持っているので、ファーストクラスの待合室へ。ツーリストもちらほら、金持ちそうな老夫婦、家族連れ、etcの、その部屋の長いすの手すりに、もってきたチェーンロックでデイバックを結びつけ、デイバックの口のファスナーにも鍵をかけ、財布とパスポートとカメラだけ持って、いざ外へ！



人々の間に白い牛が混じるから、これまたややこしく、彼らは道ばたにねころがったり、店先から、野菜や穀物を盗んだりしては、店の主人に棒で追っ払われていました。“聖なる牛”なのですが、大切にされているというよりは、単に邪魔なだけの存在のようで、現にニューデリーからは、こうした道ばたにごろごろしている牛は排除されてしまっていました。他の町と比べると、オールドデリーの方でも牛が少ないようでした。というより、町が大きい分、密度が低いだけかしら？

のどが渴いて、生ジュースを露店で飲みました。果物はオレンジ、リンゴ、パイナップルetc。大きいコップは5ルピー（50円）、小さいのは3ルピー。オレンジの大コップをたのむと、おじさんは、オレンジをすこすこと3つばかり切り、オレンジ絞りでぎゅうぎゅう絞ってコップへ。あまり冷たくないけど、オイシイ！

やっぱり身軽が一番。本当はカメラを人の目にふれるようにぶらぶらさせてはいたくなかったのだけど、小さなバッグなんて持ってないから、仕方なし。ただ今午後2時半。汽車の出発は、午後11時45分、それまでどうしようか。

せっかくのオールドデリーなんだし、まず、チャンドニー・チョウクへ。これは、駅の近くの古い商店街で、ニューデリーの小ざれいな店とくらべて、なんとも庶民くさいというか、騒がしいというか、何でもそろってるというか、買い物しやすいというか……何となく浅草や築地に雰囲気似てるみたい。メインの大通りに、幅2m位の狭い間口で、奥行きが20mくらいもありそうな店が、ぎゅうぎゅうと並んでいて、大通りからあちこちへと伸びている小道の両わきも、ずらっとお店で、どこにも人があふれかえり、ごったがえし。



チャンドニー・チョウク歩きに疲れ、一度駅に戻った後、こんどはルール・キラ（デリー城）へ。

これは、ムガール帝国5代皇帝のシャー・ジャハーンによって、17世紀なかばに建てられたもので、赤っぽい岩でつくられているゆえに、ルール・キラ（赤い城）という名前がついているわけです。何てったって、インドへ来て、初めての観光地！ 入場料は50パイサ＝5円。大きなラーホール門をくぐり、美しい芝生の庭園をぬけ、かつては色とりどりの美しい衣服をまとった男女が笑い声をあげながら散歩したのであろう小道を歩き、すかし彫りや、はめこみ細工の

美しかったのであろう宮殿の中に立ちみて……裏手の窓から、遠くみえるはずのヤムナー川の方をながめている私をみつけて、猿まわしが走って窓の下へやってきたんで、ごめんね、今、見たくないの、とあわてて首をひっこめました。



夕方、薄暗く

なってきた芝生の上を、とことこ歩いては餌を探していました。まず、証拠写真を1枚、4m。飛ぶかな、と思いつつ、3m、でも逃げない。2m、こっちを見て、とことこ歩いて遠去かろうとするけど、飛ぼうとはしない。なんとまあ、へんなやつ。ふとふりむけば、となりの芝生にもう1羽。なるほどたくさんいるわけだわ。

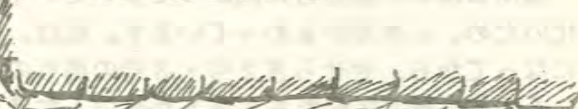
ヤツガシラを見て、気分うきうき。開場時間は日の出から日没までというルール・キラを後に、駅へもどりました。

駅前の露店の中で、バナナを買いました。売ってるお兄ちゃんのカゴの中には5本しか残っておらず、皮も黒くなって、お兄ちゃんは5本で1ルピー（10円）でいい、っていうんだけど、私は50パイサ（5円）といいまして、兄ちゃん「えー？ そんなー！」と芝居。横にいた、サリーを着たおばあちゃんが、笑いながら、その兄ちゃんをたしなめるところからして、やっぱ1ルピーっていうのは“バナナ5本、500円”っていうぐらいにむちゃくちゃな値段だったんでしょうね。50パイサでも高かったのかもしれないけど、おばあちゃんに、“50パイサで買っても悪くないかしら？”ときいたら“まあ、ね”てなかんじで、買ってしまいました。その買い物は、なかなか愉快なものでした。

その宮殿も、ムガール帝国の倒れたあとは、荒れ放題、荒らされ放題。宝石細工でもあったのか、壁にはほじくったあとがいっぱい。なんとなく汚らしい……

当時の繁栄の痕跡がここそこに残っている分、余計にそれが物悲しく……と感慨にふけてる私の目の前を、見たような鳥がとことこと。オレンジ色の体、黒と白のしましまの翼、頭の上にはあの冠羽！ そうなんです、ヤツガシラが歩いてたんです！

インドには腐るほどいるよ、と聞かされてはいたものの、いやー、インドへ来て、初めて見ちゃった！



——今回の原稿で、私はデリーを出発するはずが……書くことがたくさんありすぎて、出発は次号、ということになってしまいました。読者の皆さん、ごめんなさい。

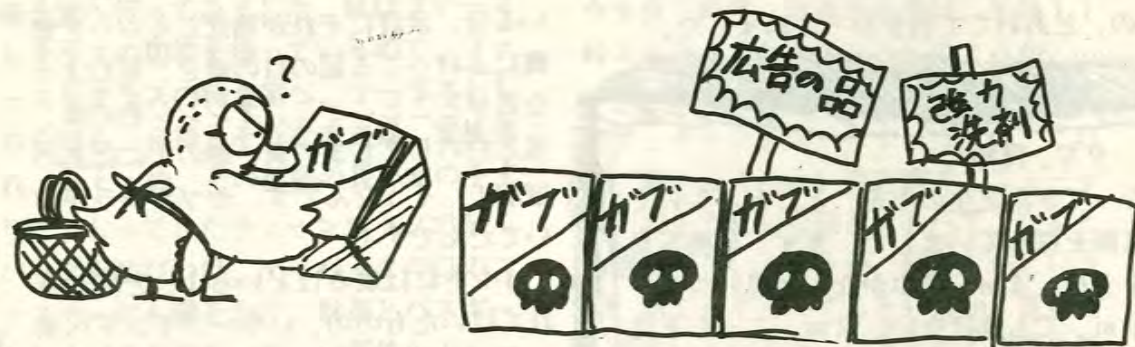
ところで、この日をピークに、私はすっかりインドが楽しくなってしまったのが、おわかりでしょうか。あれほどとんじていた値段交渉も、なんとかこなしたし、下痢をおそれず（無謀にも）露店の生ジュースをのみ、人の波にもまれ……

何で、インド拒否症がインド大好き病に転じてしまったのか、これは、その時は自分でもわかりませんでした。今思うに、ルール・キラでヤツガシラを見たのは、鳥を見るだけの余裕が私に生まれはじめていた、ということのあらわれではないか、と

これから私の目に、だんだんインドが見えてきますので、今後どうぞお楽しみに！

# 洗剤の使い過ぎに注意しましょう

寺田一哉



福栄公園から観察舎に向かって歩いていくと、保護区の入口の水門跡の所に丸浜川の浄化のため、に水車がまわっています。私は、観察舎に行くつど覗いて行くのですが、今年になってから、せせらぎ2号・3号の周りの泡の量が多くなってきたように思います。

その様に感じていたら、友人からこんな話を聞きました。「最近の洗剤は、コンパクト化がはやりで、箱も小さくなっていて本当は使う量も少なくてよいのだが、友達が洗濯しているのを見てみると、量をはからずに目分量や泡の出方で調整しているので、どうも今まで同じくらい使っているようだ。全然、節約になっていない。まるで、無駄遣いである。」

これを聞いて、もしかしたらコンパクト洗剤が泡の原因だったのでは と、気が付きました。川や海のためには、合成洗剤より石鹼の方が格段に良いのです（もちろん人にとっても）が、残念なことに実際は合成洗剤の方が多く使われています。

コンパクト洗剤は、泡立ちが悪いのが特徴の一つにあげられます。そこで、今までと同じように泡を立てようとする、洗剤を本来の必要量より余計に使う事になります。しかし、洗剤には適量と言うものがあって、それ以上多くしても汚れがよく落ちると言うことにはなりません。逆に、入れ過ぎると、せっかく落ちた汚れが、また洗っている物に戻ってしまうという害が、現れることさえあります。

実は洗剤の容器をよく見ると、たくさんの注意書きがあるのがわかります。しかし、小さな字でたくさん書いてある注意書きを読むのは、マニュアルを読み慣れている私でも大変で、多くの人は前に述べたように、泡立ちや目分量やあるいは感だけで洗剤を入れているのではないのでしょうか。

ところで、コンパクト洗剤は、一回に使う洗剤の量は少なくても、洗剤の主成分である界面活性剤の量は逆に増えているのです。減っているのは、洗剤の力を高めるために（一部には量を多くして割安感を出す役割の方が大きいという説もありますが）含まれている助剤（かって湖や海を富栄養化するとして問題になった有リン洗剤はこれにリンが含まれています；残念ながら今でも少なからず有リン洗剤が販売されていますので注意が必要です）なのです。

したがって、所定の量でも問題なのに、同じ泡立ちにするために余計に洗剤を使うと、さらに多くの界面活性剤（石鹼も界面活性剤の一種です）を使うことになり、川や海への負担を増やすことになります。川や海のためには、もちろん、石鹼の方が遙かに良いのですが、なかなか変えられない人が多く、こんなことで川や海を更に汚してしまうのは残念なことです。



市川 拓西

目分量ではなく、洗濯機の大きさや種類に応じて、付属しているスプーンの定められた線までの量を使用するようにしましょう。せっかく、コンパクト化しても、結果として必要以上の洗剤を使えば、環境に悪い影響を与えるばかりでなく、高い買物をしていることになってしまいます。

もし、まだであるなら、洗剤を入れる前に水洗いをするをお勧めします。水洗いをして、一度脱水してから、洗剤を使うという方法は、石鹼の洗濯法として推奨されているものですが、合成洗剤にも有効です。普通の洗濯物の汚れの何割かは、水洗いだけでとれると言われ、使用する洗剤も少なくすみ、より良い仕上がりになるはずですが。

また、合成洗剤は一般に泡切れが悪く、石鹼の数倍から十数倍のすすぎが必要になります。つまり、たくさんのすすぎ水があるので、水道代もバカになりません。そこで、消泡剤という泡消しが入っています。これに石鹼が使われることがあるのですが、石鹼は泡切れが良いという証明となっているものの、何か皮肉な役割であることも否めません。ですから、たとえ洗剤が残っていても、泡を消してすすぎが終わるようにしてしまいます。したがって、決して安全とは言い切れない洗剤が残っている衣類を、我々は着ていることになります。

今回は、『合成洗剤をやめましょう』がテーマではありませんが、『合成洗剤の使い方にも注意が必要である』ということです。環境に大きな負担を与える合成洗剤ですので、使い過ぎには注意しましょう。高い買物にならないようにしましょう。水洗いを実行しましょう。そして、泡切れが悪いですから、充分なすすぎをしましょう。

話に矛盾を感じるころがありますが、そこに洗剤の問題があるのかも知れません。私は、石鹼の歯磨きを使っています。合成洗剤の歯磨きでは味蕾（みらい）に障害を与え、味を変えてしまいます。ですから、歯を磨いた後には、お茶など飲めませんが、石鹼の場合は味が変わらないので、楽しい思いができます。また、二日酔いの朝も、苦しい思いをせずに歯磨きができる、という人もいます。しかし、手に入れるのに苦労していたのですが、最近大手スーパーで発見しました。今では、超安売り店を除いて、スーパーでも石鹼が入手しやすくなっていることは、嬉しいことです。





大きな森の  
小さな訓練校

その3

☆ 野草(雑草?)料理 泰菜 正

木曾谷も5月になりようやく春らしくなってきました。どうやら東京あたりとは一ヵ月程気候のずれがあるようです。桜、山吹、そして桐の花が咲き出さる。木曾谷は、朴葉巻きの季節を迎えます。朴葉巻きは、お米の粉でつくったお餅にあんを入れて、朴の葉で包んだものです。東京で言う柏餅のようなもので、

こちらでは、朴の葉の取れる端午の節句の頃から、店先に並ぶようになります。朴の香りがして仲々美味しいものです。また、ちょうどこの頃が山菜取りのピークでもあり、5月の中旬には、木曾駒ヶ岳のふもとにある山荘で、山菜パーティーもありました。イタドリ、ゼンマイ

ゼンマイ、オオバコ、スギナ等は天ぷらにして、他にタンポポの花の酢物、シオデのゆでたもの等を食べました。また、自動車で遊びに出かけた人が、一度、山ウドをたくさん持って帰って来て、その日は、山ウドのフルコースを味わうことができました。

コゴミ等のゆでたもの、タラの芽の天ぷら、山ウドの酢物などを食べ、草もちをついたり、鶏を丸焼きにして、一日楽しく過ごしました。

僕がいる寮の周辺でも食べられる野草(雑草?)がいくつかあり、日曜日等の休日には、野の味?を結構楽しむことができました。ヨモギ、イタドリの葉、アケビの葉、フジの花、アザミ、ワラビ。

— 山ウド料理 —

・白い所はゆでて、マヨネーズをかけて。  
・同じく細い所は炒め物。又、葉と一緒に細かく刻んで、お味噌汁に。

・芽や葉の柔らかい所は天ぷらに。

・お捨てたのは皮ぐらひなもつですが、開くと中にはよくと、皮も「まんぱら」にして食べられるそうです。

ぜひ一度御試しを。

みんなで やろう! クリーン・丸浜川

7月29日(土) 雨天中止 行徳野鳥観察舎友の会 主催  
集合・解散: 野鳥観察舎 参加自由

丸浜川に水車をまわして酸素をふきこみ、その水で行徳鳥獣保護区の中に湿地を作るといふ私たちの実験は、おかげさまでトヨタ財団の第4回研究コンクール“見近な環境をみつめよう”で、最優秀賞を受賞することができました。参加140団体中トップに選ばれ、うれしく思っております。ご指導、ご協力ありがとうございました。

夏休み恒例の“クリーン・丸浜川”も第3回目を迎えます。使いふるしの油から、せっけんを作ってみたり、目につくゴミを拾ったり。そして夕方からは観察舎脇の芝生でお楽しみのバーベキュー大会。浦安の花火もよく見えます。今回から、ゴミ拾いの参加者はバーベキュー会費が割引になりますので、ふるってご参加ください。

その1 せっけんづくり 午前10時~11時半

用意するもの: 広口の空きびん(コーヒーや蜂蜜のびんなど)、タオル、菜ばし  
あれば使い古しの食用油、ごはん1口ぶん

廃油を使って“プリンせっけん”を作ります。作り方は簡単ですし、食器洗いやワイシャツのえりあか落としに便利。これを機会に、水のごれをひどくする合成洗剤のかわりに、せっけんのよさを見直してみましよう。夏休みの宿題にもいかが?

その2 ゴミひろい大会 午後2時~午後5時

用意するもの: 帽子、タオル、軍手、長靴かよごれてよい靴、着替えもあると便利  
塩浜橋から福栄公園まで、丸浜川ぞいに目につくゴミを拾うチームと、保護区の干潟のゴミを拾い、あわせて丸浜川の水でできた池を見るチームの二手にわかれる予定。ゴミひろいが終わり、後片づけがすんだら、お楽しみのすいか割りです!

その3 バーベキュー大会 午後5時~午後8時

用意するもの: 会費(中学生以上1000円、ゴミひろい参加者は4割引=600円  
こども一律500円) ビール(有料)あり。  
食器(皿・コップ・おはし)

電話で東[ ]、鈴木[ ]、蓮尾[ ]のいずれかにお申してください。  
涼しい風に吹かれながら、芝生で楽しいバーベキュー。夕空をウミネコやカワウが飛んで行くのを見ていると、一日の疲れも消えてしまうでしょう。7時45分から、浦安の花火も見物できます。7時半から9時の間に流れ解散します。



ムクドリとハッカチョウのけんか  
 わたしは、はじめ、びーびー、なんなのかなあ？と思って気にしないでいたの  
 で、かんけいがないなと思っていました。  
 でも、あんまりうるさいものだから、み  
 たら、ムクドリと同じような鳥が2わで  
 けんかをしていました。でも、あいて（  
 ハッカチョウ）が大きすぎて、かてませ  
 んでした。だから、弟たちは「あの、へ  
 んな鳥め！」とってハッカチョウをお  
 っばらっていました。  
 でも、ときどき、わたしのへやをのぞ  
 いていました。とてもかわいい鳥です。

鈴木 舞  
 (塩焼小4年)



編集部より

末広2丁目の鈴木さんのお宅で、ムク  
 ドリが巣を作っていたところ、もう少し  
 大型のハッカチョウ（インドや東南アジ  
 アにすむムクドリやキュウカンチョウに  
 近い種類で、行徳では飼鳥の野生化した  
 ものが見られます）がやってきて、どう  
 もムクドリのヒナを殺して巣を乗っ取り  
 自分が巣を作ったようだとのことです。  
 舞ちゃんに様子を書いていただきました。  
 5月にあった事件です。



新入会員

行事案内

誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜観察会（毎月第2日曜日） 8月13日、9月10日

集合：東西線行徳駅前 午前10時

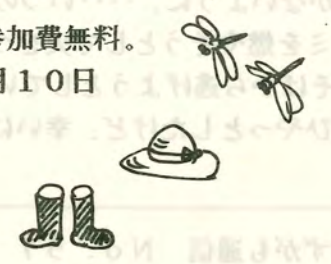
解散：行徳野鳥観察舎前 午後3時頃

担当：東 良一

共催：日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会

持物：昼食、飲み物、バス代（大人310円、子供160円）

行徳駅からバスで行徳橋へ出て、江戸川土手を河口へ2kmほど歩きます。秋の  
 渡りが始まる頃で、渡り途中のシギやチドリが身近に観察できます。河口付近で昼  
 食後、午後からはバスで保護区へ向かいます。暑いので帽子を忘れずにお持ち下さ  
 い。小雨決行。



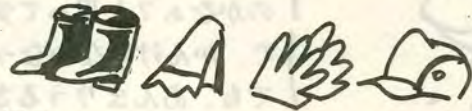
☆丸浜バードリバーを調べよう 8月27日(日)、9月24日(日)

集合: 行徳野鳥観察舎前 午前10時

解散: " 午後3時頃

担当: 東 良一

持物: 長ぐつ、タオル、ビニール手袋、帽子



丸浜川と新池の底泥を採取し、中にいる生物を探します。汚れてもよい服装で、着替えなどもご用意下さい。



☆クリーン・丸浜川、第3回丸浜川まつり 7月29日(土)

丸浜川まつりも今年で3回目です。詳しくは別刷りのちらしをごらん下さい。

☆ふなばし浦三番瀬まつり

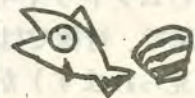
8月27日(日)

主催・問合せ・予約受付: ふなばし浦三番瀬まつり実行委員会



会場: 船橋漁港 9:00~19:00

漁船ツアー、渡し船、フリーマーケット、アサリとイワシの無料配布、大漁旗オークション、ミニSL、マリンジェット試乗なども催し物が盛りだくさん! 一部有料、予約制のものもありますので委員会までお問い合わせ下さい。



☆水鳥カウント

9月15日(金・祝)

行徳周辺の水鳥の数を数えます。参加ご希望の方は東 [redacted] までお申込下さい。

行徳野鳥観察舎は

8月1日から10月31日まで休館中です

編集後記 ☆表紙の枕草子の不正確きわまりない解釈は編集部が適当につくったもの。風情も何もないですが、あまり真剣に読まないように。まして答案には決して書かないように。……いつのまにかバス停のひまわりが咲きました。(D)

☆ゴミを燃やそうとして火をつけてからふと見ると、でっかいひきがえるがもたもたと火のそばから逃げようとしているところ。大あわてでつかまえて安全な場所に放しました。ひやっとしたけど、幸いにひきがえるはやきがえるにならずにすみました。(純)

すずがも通信 No. 57

1989年8月1日発行

発行所 行徳野鳥観察舎友の会

年会費 一般1000円、ジュニア500円

発行人 東 良一

事務局 [redacted]

編集 清水大悟、蓮尾純子

編集協力 東 馨子、市川 拓

行徳野鳥観察舎 [redacted]